

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「ゴールドマン・サックス・世界債券オープンA限定為替ヘッジ(野村SMA・EW向け)／B為替ヘッジなし(野村SMA・EW向け)」は、このたび、第1期の決算を行いました。本ファンドは、日本を含む世界各国の債券に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

A限定為替ヘッジ

第1期末(2015年12月7日)		第1期	
基準価額	9,974円	騰落率	-0.26%
純資産総額	3,931百万円	分配金合計	0円

B為替ヘッジなし

第1期末(2015年12月7日)		第1期	
基準価額	10,193円	騰落率	1.93%
純資産総額	6,592百万円	分配金合計	0円

(注)騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付することが定められております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。
なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

〈閲覧方法〉
右記URLにアクセス⇒「ファンドラインナップ」より本ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

交付運用報告書

ゴールドマン・サックス・世界債券オープン

A限定為替ヘッジ(野村SMA・EW向け)
B為替ヘッジなし(野村SMA・EW向け)
追加型投信／内外／債券

第1期(決算日2015年12月7日)
作成対象期間:2015年3月12日～2015年12月7日

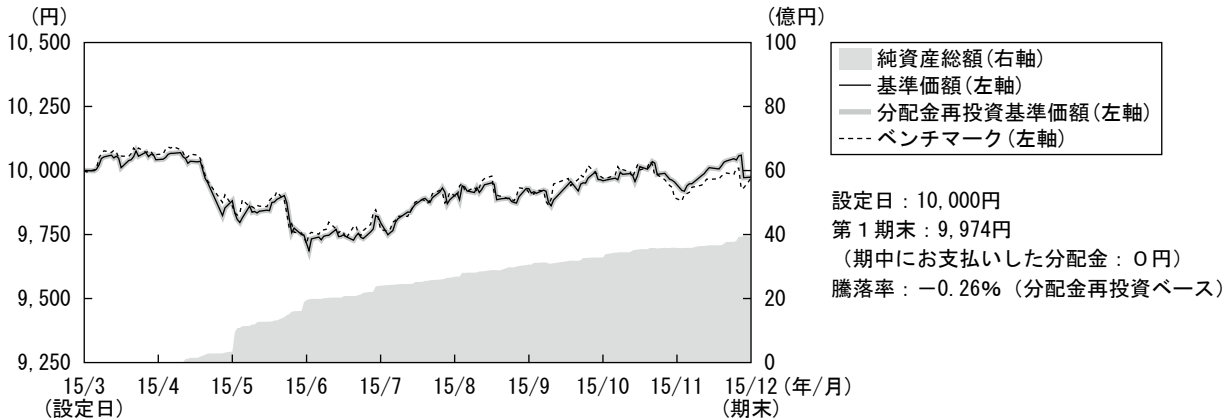
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先: 03-6437-6000(代表)
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

運用経過

■ 基準価額等の推移について（2015年3月12日～2015年12月7日）

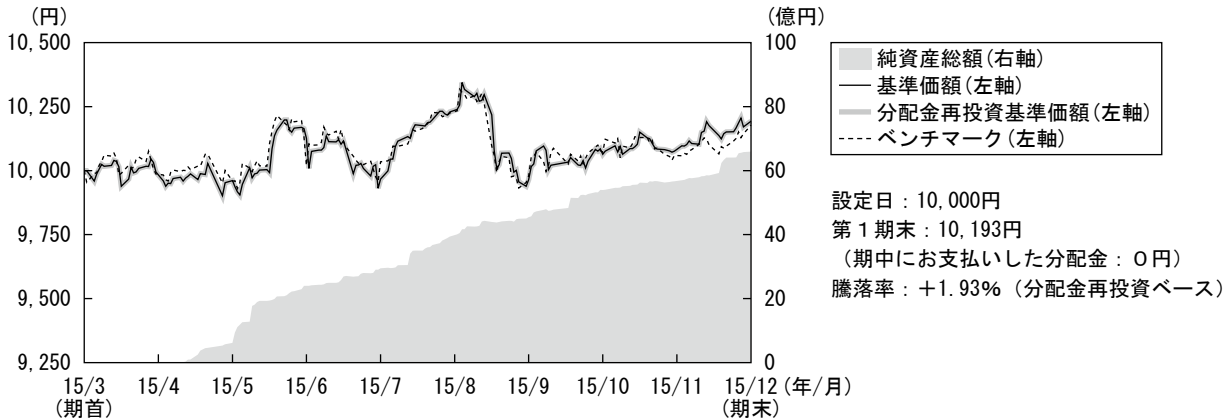
○ゴールドマン・サックス・世界債券オープンA限定為替ヘッジ（野村SMA・EW向け）

（以下、「A限定為替ヘッジ」といいます。）



○ゴールドマン・サックス・世界債券オープンB為替ヘッジなし（野村SMA・EW向け）

（以下、「B為替ヘッジなし」といいます。）



- (注1) A限定為替ヘッジのベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ヘッジ・ベース）です。
- (注2) B為替ヘッジなしのベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ベース）です。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注4) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注5) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、設定日（2015年3月12日）の基準価額を起点として指数化しています。

■ 基準価額の主な変動要因

- A限定為替ヘッジの基準価額は、設定日の10,000円から26円下落し、期末には9,974円となりました。
- B為替ヘッジなしの基準価額は、設定日の10,000円から193円上昇し、期末には10,193円となりました。

上昇要因

保有する債券からの利息収入などが、基準価額の上昇要因となりました。B為替ヘッジなしにおいては、主要投資対象通貨である米ドルとユーロが対円で上昇したことも、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

主要投資対象である米国、ドイツ、英国の国債利回りが上昇（価格は下落）したことなどが、基準価額の下落要因となりました。A限定為替ヘッジにおいては、円ヘッジに伴うヘッジコストも、基準価額の下落要因となりました。

■ 1万口当たりの費用明細

○A 限定為替ヘッジ

項目	当期		項目の概要
	2015年3月12日～2015年12月7日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	47円 (40)	0.472% (0.400)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(4)	(0.040)	
(受託会社)	(3)	(0.032)	
売買委託手数料 (先物・オプション)	1 (1)	0.009 (0.009)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用)	4 (1)	0.042 (0.008)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
(監査費用)	(0)	(0.005)	
(その他)	(3)	(0.029)	
合計	52	0.523	
期中の平均基準価額は9,934円です。			

○B 為替ヘッジなし

項目	当期		項目の概要
	2015年3月12日～2015年12月7日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	48円 (40)	0.472% (0.400)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(4)	(0.040)	
(受託会社)	(3)	(0.032)	
売買委託手数料 (先物・オプション)	1 (1)	0.010 (0.010)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用)	3 (1)	0.028 (0.006)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
(監査費用)	(0)	(0.004)	
(その他)	(2)	(0.018)	
合計	52	0.510	
期中の平均基準価額は10,080円です。			

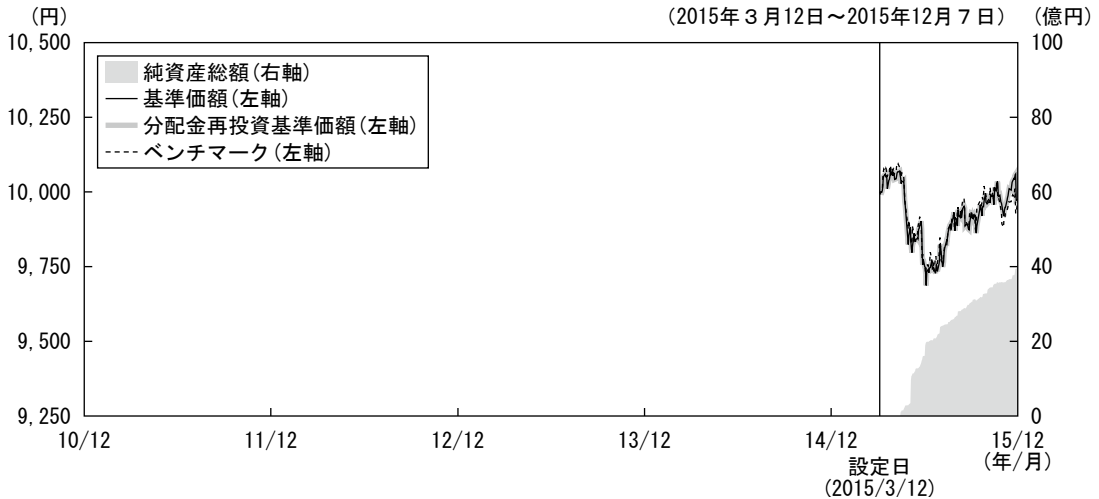
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

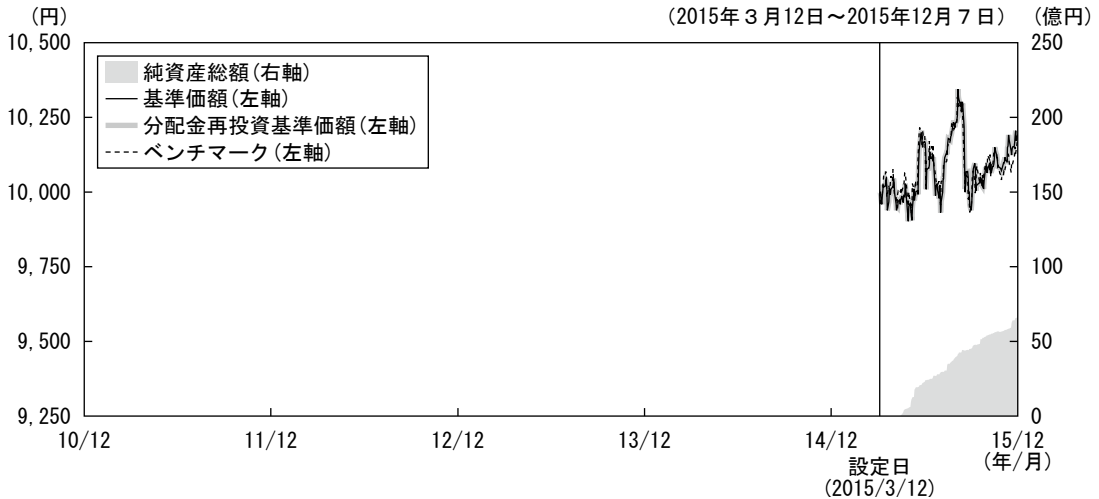
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 最近5年間の基準価額等の推移について

○A 限定為替ヘッジ



○B 為替ヘッジなし



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注3) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、設定日(2015年3月12日)の基準価額を起点として指数化しています。

■ 最近5年間の年間騰落率

○A 限定為替ヘッジ

	2015/3/12 設定日	2015/12/7 決算日
基準価額（分配落）（円）	10,000	9,974
期間分配金合計（税引前）（円）	—	0
分配金再投資基準価額騰落率	—	−0.26%
ベンチマーク騰落率	—	−0.31%
純資産総額（百万円）	1	3,931

○B 為替ヘッジなし

	2015/3/12 設定日	2015/12/7 決算日
基準価額（分配落）（円）	10,000	10,193
期間分配金合計（税引前）（円）	—	0
分配金再投資基準価額騰落率	—	1.93%
ベンチマーク騰落率	—	1.78%
純資産総額（百万円）	1	6,592

■ 投資環境について

<海外債券市場>

当期は、主要先進国の10年国債利回りは概ね上昇しました。

米国では、期の序盤は、3月のFOMC（米連邦公開市場委員会）後の声明においてFRB（米連邦準備制度理事会）が経済成長率見通しを下方修正し、早期利上げ観測が後退したことなどを受け、利回りは低下基調で始まりましたが、その後、米国の良好な経済指標などに伴う早期利上げ観測の高まりから、利回りは上昇傾向となりました。期の中盤に入ると、インフレ期待が後退したことや、中国の人民元切り下げをきっかけに世界の株式市場が下落し、投資家のリスク回避傾向が強まったことなどから、利回りは8月にかけて低下基調で推移しました。期の終盤は、イエレンFRB議長の議会証言や10月の雇用統計が市場予想を大幅に上回る改善となったことなどを受け、12月の利上げ観測が高まったことなどから利回りは上昇傾向となり、結局前期末を上回る水準で期を終えました。ユーロ圏では、期の序盤は、米国と同様に利回りは低下基調で始まりましたが、その後、利回りの低下が行き過ぎとの見方や、4月のユーロ圏CPI（消費者物価指数）速報値が前年比0%と5ヵ月ぶりにマイナス圏を脱するなど、ユーロ圏経済に改善の兆しが見られインフレ期待が上昇したことなどを受けて、利回りは上昇傾向となりました。期の中盤以降は、投資家のリスク回避傾向が強まったことや、ドラギECB（欧州中央銀行）総裁が追加金融緩和策を打ち出す考えを示唆したことなどを背景に、利回りは低下基調が継続しましたが、期を通じては、利回りは上昇する結果となりました。

＜外国為替市場＞

外国為替市場では、米ドル、ユーロなどに対して、円安が進みました。

米ドルは対円では、期の前半は、米雇用関連統計や住宅指標などの経済指標が堅調だったことで、年内利上げ観測が高まったことなどを背景に、円安米ドル高が進みました。期の後半に入ると、中国の人民元切り下げをきっかけに世界の株式市場が下落し、投資家のリスク回避傾向が強まったことなどから、急速に円高米ドル安が進みました。その後、12月の利上げ観測が高まったことなどから円安米ドル高が進み、前期末対比では円安米ドル高となりました。ユーロは、期の前半は良好なユーロ圏の経済指標を背景に欧州経済に改善の兆しが見られたことなどから、円安ユーロ高が進みました。期の後半は、ECBの追加金融緩和が意識されたことなどから円高ユーロ安が進んだものの、結局、円安ユーロ高となりました。

■ ポートフォリオについて

＜本ファンド＞

A限定為替ヘッジはゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド（以下、「Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド」といいます。）を、B為替ヘッジなしはゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンド（以下、「Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンド」といいます。）を高位に組入れることにより、日本を含む世界各国の債券への分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。

＜Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド／Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンド＞

債券

設定時における主要なポジションは、デュレーション戦略における米国の金利デュレーションの短期化ポジション、国別配分戦略における米国のオーバーウェイトに対する英国のアンダーウェイト、セクター配分戦略における社債のオーバーウェイトなどでした。期末における主要なポジションは、デュレーション戦略における米国の短期化ポジションや、ユーロの長期化ポジション、国別配分戦略におけるユーロ圏のオーバーウェイトに対する米国や英国のアンダーウェイト、セクター配分戦略における社債や非政府系MBS（不動産ローン担保証券）のオーバーウェイトなどでした。

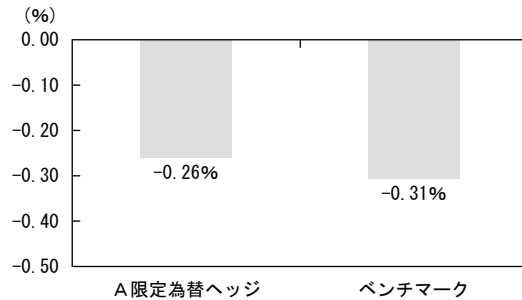
通貨

設定時においては、豪ドルやニュージーランド・ドルなどをアンダーウェイトとする一方で、米ドルなどをオーバーウェイトとしました。期末においては、ユーロや豪ドルなどをアンダーウェイトとする一方で、米ドルやノルウェー・クローネなどをオーバーウェイトとしました。

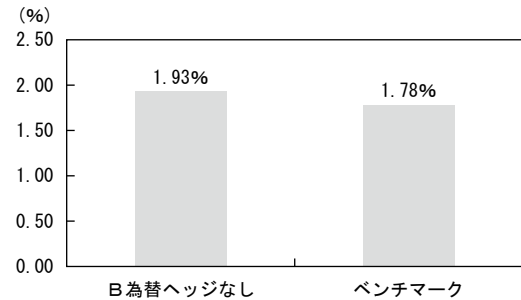
■ ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>

○ A 限定為替ヘッジ



○ B 為替ヘッジなし



（注）基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期のA限定為替ヘッジのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は-0.26%となり、ベンチマーク（-0.31%）を上回りました。また、B為替ヘッジなしのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は+1.93%となり、ベンチマーク（+1.78%）を上回りました。

当期においては、デュレーション戦略、国別配分戦略、通貨配分戦略がプラス寄与となった一方、セクター配分戦略、個別銘柄選択がマイナス寄与となりました。

デュレーション戦略では、米国の金利デュレーションの短期化ポジションなどがプラス寄与となりました。国別配分戦略では、ユーロ圏やカナダのオーバーウェイトに対する米国のアンダーウェイトなどがプラス寄与となりました。通貨配分戦略では、主に豪ドルやカナダ・ドルのアンダーウェイトがプラス寄与となりました。一方、セクター配分戦略では、社債の組入れなどがマイナス寄与となりました。また、個別銘柄選択では、国債および金利スワップなどの銘柄選択がマイナス寄与となりました。

■ 分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、当期は、A限定為替ヘッジおよびB為替ヘッジなしの分配は行わないこととしました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

<分配原資の内訳>

○A限定為替ヘッジ

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第1期
	2015年3月12日～2015年12月7日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	105

○B為替ヘッジなし

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第1期
	2015年3月12日～2015年12月7日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	192

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。

また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

＜本ファンド＞

今後も引き続き各マザーファンド受益証券を高位に組入れることにより、日本を含む世界各国の債券への分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。また、A限定為替ヘッジでは対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を目指します。

＜本マザーファンド＞

当社の投資戦略に関して、デュレーション戦略では、米国の金利市場は労働市場や内需中心のセクターが堅調であるのに対し、インフレ率が上向かず、軟調な世界経済に影響を受けるセクターが振るわないなど、金利上昇要因と低下要因の双方を抱えており、F R Bの動向を見つつ機動的にポジションを調整する方針です。他方、ボラティリティ（価格変動率）の上昇や、様々な地域における「格差の拡大や縮小」により、各資産クラスの値動きに差が出てくれば、ボラティリティの想定外の上昇などのリスクに注視する必要があるものの、国別配分戦略、通貨配分戦略、国債／金利スワップ戦略における、レティブ・バリュー（相対価値）の投資機会が創出される、魅力的な相場環境になると考えています。セクター配分戦略については、社債に対してやや強気の見方をしています。先進国の経済見通しは底堅く、企業の財務体質が概ね堅固であることや、足元のスプレッド（国債に対する上乗せ金利）拡大によりバリュエーション面での魅力が増していることなどが背景として挙げられます。一方で、原油価格の下落、中国経済の先行き不透明感、および企業の負債比率が上昇傾向にある点などについては懸念材料として注視しています。

今後も引き続き運用の基本方針に基づいて運用を行います。

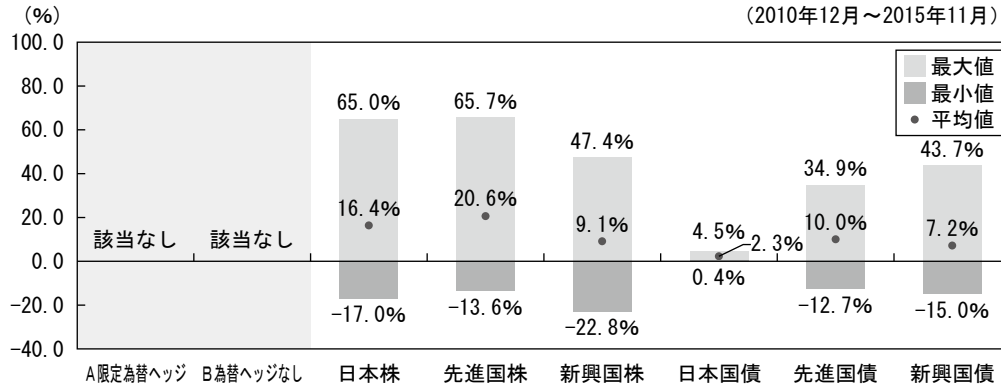
（上記見通しは2015年12月7日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	原則として無期限
運用方針	日本を含む世界各国の債券を主要投資対象とし、中期的なデュレーションを有する世界の高格付けの公社債によって構成されるポートフォリオに重点をおいた、グローバルな投資プログラムを通じて、高いレベルのトータル・リターンをねらいます。世界の債券市場に分散投資することによりリスクの分散を図りますが、金利リスクは継続してとり続けて行きます。
主要投資対象	
本ファンド	A 限定為替ヘッジ：ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの受益証券 B 為替ヘッジなし：ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンドの受益証券
ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド	・ 日本を含む世界各国の債券 ・ 為替（為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りつつ、別途為替アクティブ・ポジションを構築）
ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンド	・ 日本を含む世界各国の債券 ・ 為替（為替ヘッジは行わず、別途為替アクティブ・ポジションを構築）
運用方法・組入制限	①主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます。 ②本ファンド及びマザーファンドにおける組入制限は下記のとおりです。 ・ 外貨建資産への投資については、特に制限を設けません。 ・ デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。
分配方針	原則として毎計算期末（毎年12月6日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

(参考情報)

■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2010年12月から2015年11月の5年間ににおける1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。ただし、本ファンドは2015年3月12日から運用を開始し、該当データがないため、上記グラフでは代表的な資産クラスについてのみ表示しています。

○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースまたは円換算ベースの指数を採用しております。
- ・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
- ・本ファンドの騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

本ファンドのデータ

■ 本ファンドの組入資産の内容（2015年12月7日現在）

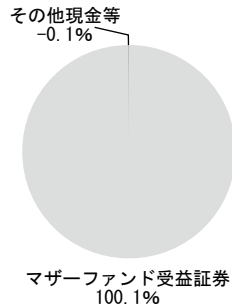
< A 限定為替ヘッジ >

○ 組入れファンド

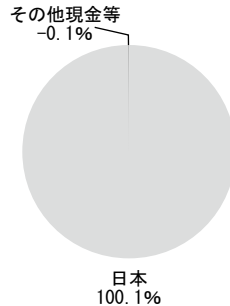
（組入銘柄数：1 銘柄）

ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス・世界債券オープン Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド	100.1%

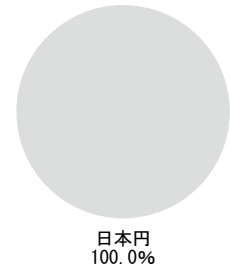
○ 資産別配分



○ 国別配分



○ 通貨別配分



（注）上記の比率は全て A 限定為替ヘッジの純資産総額に対する割合です。

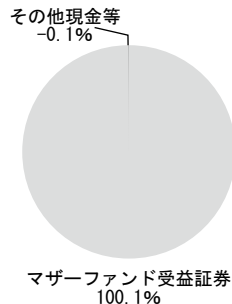
< B 為替ヘッジなし >

○ 組入れファンド

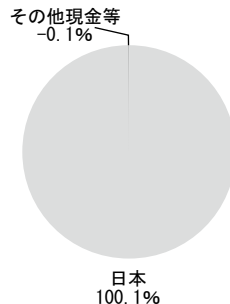
（組入銘柄数：1 銘柄）

ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス・世界債券オープン Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンド	100.1%

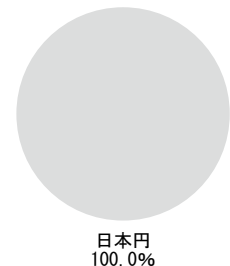
○ 資産別配分



○ 国別配分



○ 通貨別配分



（注）上記の比率は全て B 為替ヘッジなしの純資産総額に対する割合です。

■ 純資産等

○A 限定為替ヘッジ

項目	第 1 期末
	2015年12月 7 日
純資産総額	3,931,259,815円
受益権総口数	3,941,328,729口
1 万口当たり基準価額	9,974円

(注) 期首元本額は1,000,000円、当作成期間中において、追加設定元本額は4,032,065,030円、同解約元本額は91,736,301円です。

○B 為替ヘッジなし

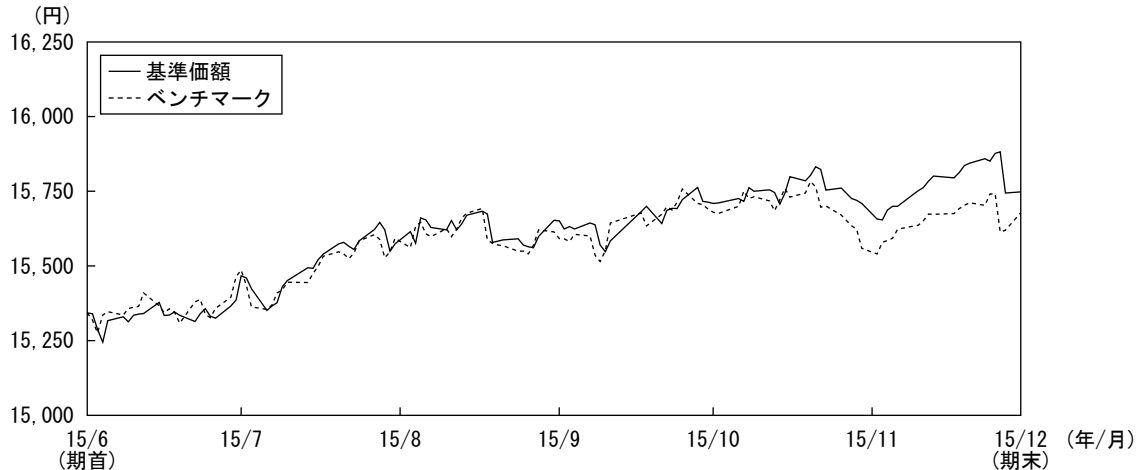
項目	第 1 期末
	2015年12月 7 日
純資産総額	6,592,973,765円
受益権総口数	6,468,259,368口
1 万口当たり基準価額	10,193円

(注) 期首元本額は1,000,000円、当作成期間中において、追加設定元本額は6,754,207,919円、同解約元本額は286,948,551円です。

組入上位ファンドの概要

ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド（2015年12月7日現在）

○基準価額等の推移について（2015年6月9日～2015年12月7日）



（注1）基準価額等の推移についてはAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの直近の計算期間のものです。

（注2）Aコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドのベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ヘッジ・ベース）です。

（注3）ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

○1万口当たりの費用明細

項目	
売買委託手数料 （先物・オプション）	1円 (1)
その他費用 （保管費用） （その他）	1 (1) (0)
合計	2

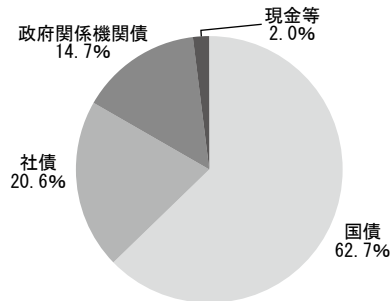
（注1）1万口当たりの費用明細は組入れファンドの直近の計算期間のものです。

（注2）1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については3ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

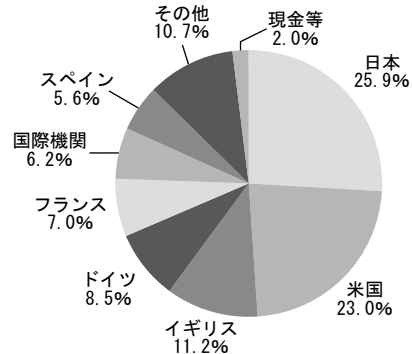
○債券特性値

最終利回り : 1.28%
デュレーション : 7.80年

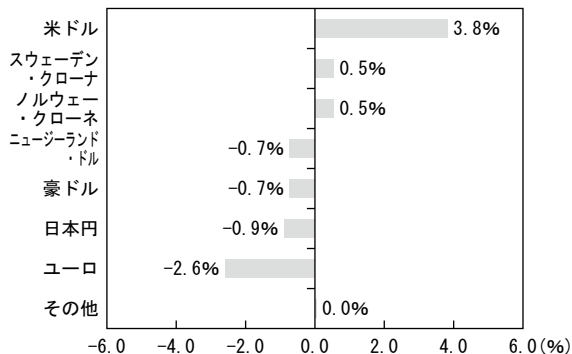
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

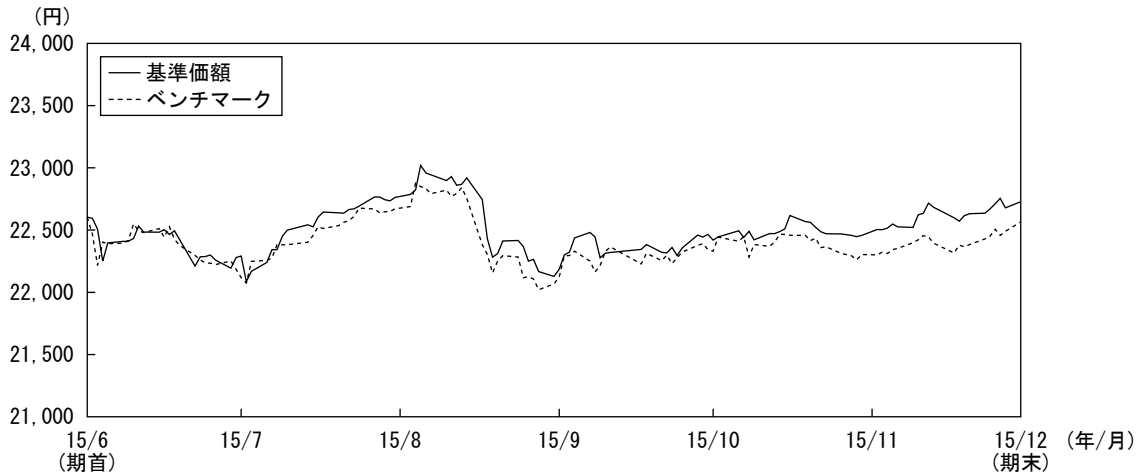
(組入銘柄数 : 173銘柄)

	銘柄名	種別	通貨	構成比
1	第110回利付国債 (5年) 0.3% 2018年3月20日	国債	JPY	5.2%
2	第310回利付国債 (10年) 1% 2020年9月20日	国債	JPY	4.0%
3	欧州安定メカニズム 0.05% 2018年12月17日	政府関係機関債	EUR	3.7%
4	第274回利付国債 (10年) 1.5% 2015年12月20日	国債	JPY	3.2%
5	ドイツ国債 1% 2025年8月15日	国債	EUR	3.1%
6	ドイツ復興金融公庫 1.125% 2018年8月6日	政府関係機関債	USD	2.5%
7	欧州安定メカニズム 0.1% 2020年11月3日	政府関係機関債	EUR	2.2%
8	第145回利付国債 (20年) 1.7% 2033年6月20日	国債	JPY	2.1%
9	アメリカ国債 1% 2019年6月30日	国債	USD	2.1%
10	第330回利付国債 (10年) 0.8% 2023年9月20日	国債	JPY	2.1%

- (注1) 債券特性値、資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄のデータはAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの直近の決算日時点のものです。
- (注2) 上記の比率は全てAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- (注3) 通貨別配分は、基本配分（日本円100%）からの乖離を示しています。したがって、日本円については基本配分との合計が実際のポジションとなります。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

ゴールドマン・サックス・世界債券オープンBコース（為替ヘッジなし）マザーファンド（2015年12月7日現在）
○基準価額等の推移について（2015年6月9日～2015年12月7日）



（注1）基準価額等の推移についてはBコース（為替ヘッジなし）マザーファンドの直近の計算期間のものです。

（注2）Bコース（為替ヘッジなし）マザーファンドのベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（円ベース）です。

（注3）ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

○1万口当たりの費用明細

項目	
売買委託手数料 （先物・オプション）	1円 (1)
その他費用 （保管費用） （その他）	1 (1) (0)
合計	2

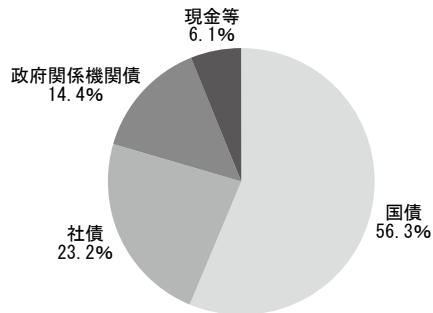
（注1）1万口当たりの費用明細は組入れファンドの直近の計算期間のものです。

（注2）1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については3ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

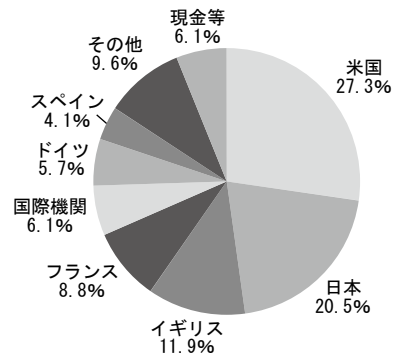
○債券特性値

最終利回り : 1.48%
デュレーション : 7.79年

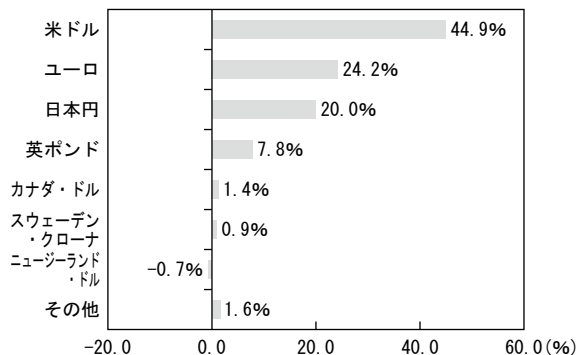
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

(組入銘柄数 : 190銘柄)

	銘柄名	種別	通貨	構成比
1	第110回利付国債 (5年) 0.3% 2018年3月20日	国債	JPY	4.8%
2	アメリカ国債 1% 2019年6月30日	国債	USD	3.3%
3	第310回利付国債 (10年) 1% 2020年9月20日	国債	JPY	3.3%
4	アメリカ国債 1.375% 2020年2月29日	国債	USD	3.2%
5	欧州安定メカニズム 0.05% 2018年12月17日	政府関係機関債	EUR	2.5%
6	ドイツ復興金融公庫 1.125% 2018年8月6日	政府関係機関債	USD	2.5%
7	第145回利付国債 (20年) 1.7% 2033年6月20日	国債	JPY	2.4%
8	欧州安定メカニズム 0.1% 2020年11月3日	政府関係機関債	EUR	2.1%
9	アメリカ国債 2.875% 2043年5月15日	国債	USD	1.9%
10	フランス国債 4.25% 2023年10月25日	国債	EUR	1.8%

(注1) 債券特性値、資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄のデータはBコース (為替ヘッジなし) マザーファンドの直近の決算日時点のものです。

(注2) 上記の比率は全てBコース (為替ヘッジなし) マザーファンドの純資産総額に対する割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。